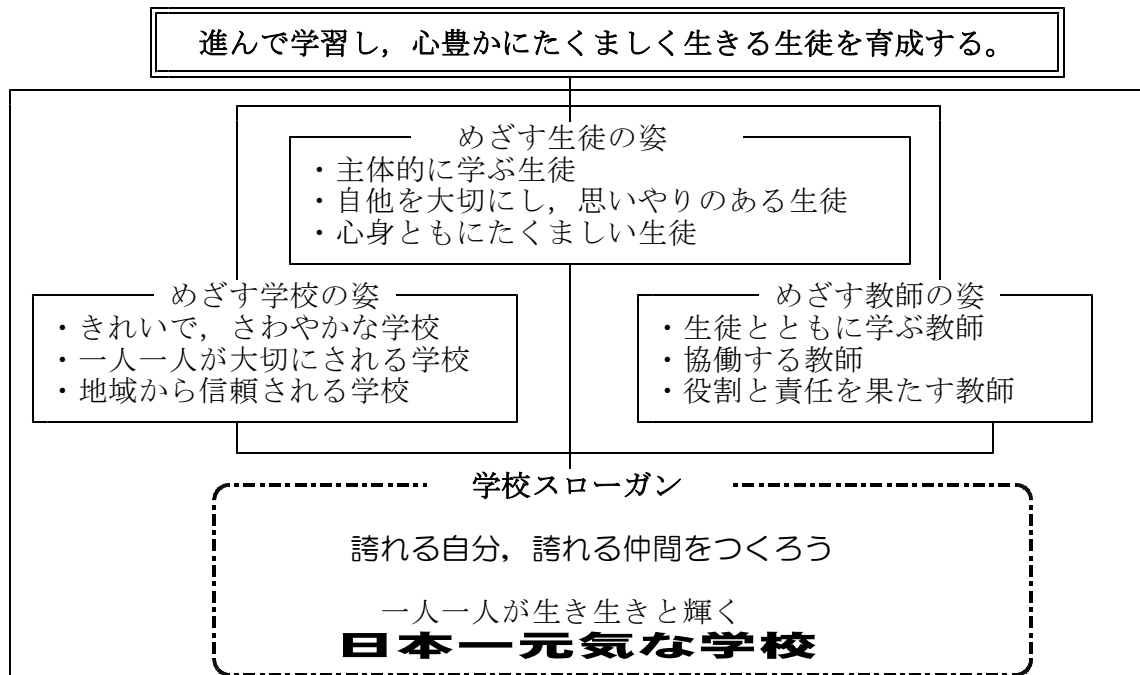


I 学校経営の基本

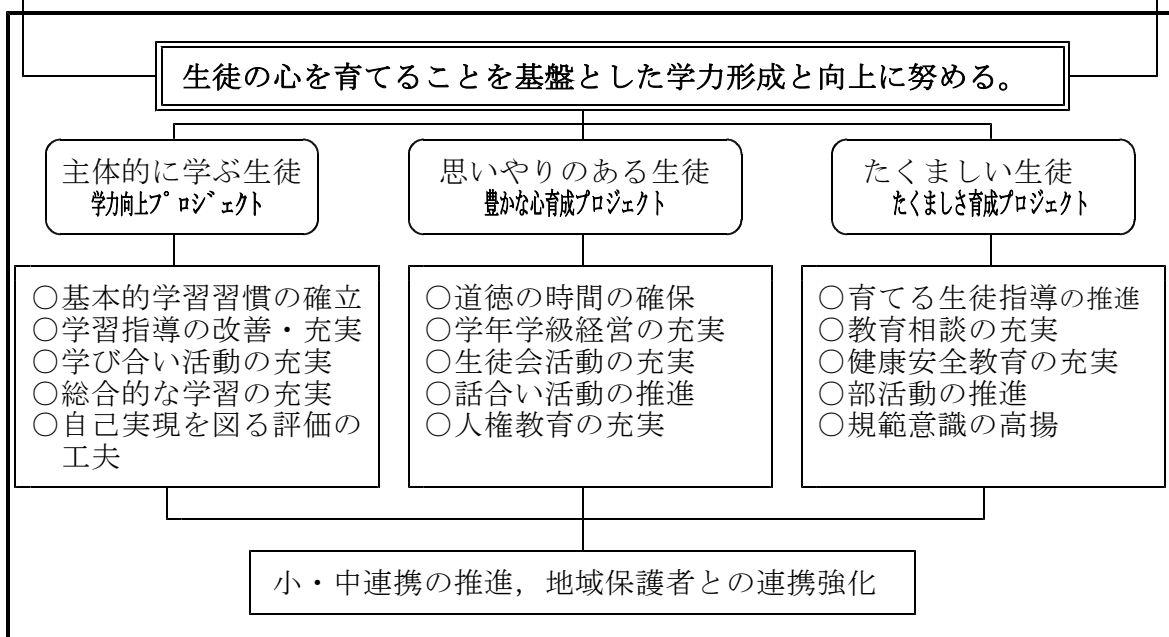
1 学校経営の基調

- ・ 本県教育目標及び結城市学校教育の目標を受け、本校教育目標の具現化のために、生徒の実態、保護者の願い、地域の実情をふまえ、地域の人材・文化・自然等を学校教育の場に生かしていく。
- ・ 組織マネジメントを生かした学校経営をすすめ、職員一人一人が自己の持ち味を発揮しながら積極的に学校経営に参画していく。

2 学校教育目標



3 本年度の組織目標



4 重点目標

- (1) 学習指導の充実改善を図り、主体的に学ぶ意欲を育てる。
- (2) 思いやりのある心豊かな生徒を育てるために、道徳・特別活動の充実を図る。
- (3) 心身ともに健康で安全な生活をするために、基本的生活習慣・規範意識の定着を図る。
- (4) 心身に障害のある生徒の理解と、自立をめざす教育の推進を図る。
- (5) 部活動の充実を図る。
- (6) 地域に開かれた学校づくりに努める。
- (7) 小学校との連携を図り、継続的・系統的な学習指導及び生活指導をすすめる。

5 努力事項と施策

組織目標との関連	重点目標との関連	努力事項と施策
主体的に学ぶ生徒	(1)	【主体的に学ぶ意欲を育てるために】 ア 個に応じた学習指導方法の工夫改善 ・教材研究の充実と授業の改善を図り、分かる喜びを味わえる授業を展開する。 ・学習形態や少人数指導の工夫をし、学習の個別化を図る。 ・確かな学力を身に付けさせるために、繰り返しや補充学習を進める。 ・学習習慣の確立を図るためのノート指導の充実、自主学習を推進する。 イ 一人一人の「よさ」を生かす学習指導方法の充実 ・体験学習や問題解決的な学習を重視した授業づくりをする。 ・生徒の活動の場を工夫し、話し合い・学び合う活動を充実させ、言語力・コミュニケーション能力を高める。 ・学校図書館、ICT機器の効果的な活用を推進する。 ・環境、福祉、国際理解教育を視野に入れた「総合的な学習の時間」を推進する。 ウ 生徒一人一人の自己実現を図る評価の工夫 ・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばす評価観に立ち、多面的・継続的・客観的な学習状況の評価をすすめる。 ・生徒自らが学習過程を振り返り、新たな目標や課題をもって学習が進められるよう、「学習計画」「自己評価」「相互評価」を取り入れた指導の工夫をする。
思いやりのある生徒	(2)	【思いやりがあり、心豊かな生徒を育てるために】 ア 道徳教育の充実 ・めざす生徒の姿を核とし、具体目標を設定した日常指導を実践する。 ・自らの生活（生き方）に関わる内容を取り上げ、実践化を図る指導を進める。 ・魅力的な教材の開発と活用、「私たちの道徳」の計画的な活用を進め、一人一人の道徳的心情を高め、日常における実践力を身に付ける指導を進める。 イ 学年学級経営、生徒会活動の充実 ・生徒にとって所属感があり、心の居場所となる魅力ある学校づくりを進める。 ・集団による話し合い活動の活性化を図り、課題解決能力を育てる。 ・体験活動、奉仕的活動を通して、望ましい人間関係の育成に努める。（リーダーとフォロアラーのよりよい関係づくり） ・ねらいを明確にした生徒主体の学校行事を実践する。 ウ 福祉教育の充実 ・体験的な活動を通して、助け合う心・共に生きる態度を育てるとともに、自己の社会貢献意識を高める。 ・高齢社会への対応を想定した活動を計画的、継続的に位置づける。 エ 人権教育の充実 ・日常生活や教室環境、言語環境など、人権に配慮した環境づくりを進める。 ・人権週間や人権集会を通して、人権意識や人権感覚の高揚に努める。

